HITACHI

JP1 Cloud Service ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション 利用ガイド

JCSM07-0260-01

前書き

■ 対象サービス

＜ V02-01 以降＞

●ジョブ管理 - スタンダード ディザスタリカバリオプション

SD-527318153 JP1 Cloud Service/Job Management - Standard Disaster Recovery Option 02-01 以降

●ジョブ管理 - エンタープライズ ディザスタリカバリオプション

SD-5273181B3 JP1 Cloud Service/Job Management - Enterprise Disaster Recovery Option 02-01 以降

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上，必要な手続きをお取りください。

なお，不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

記載の会社名，製品名などは，それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ 発行

2026 年 10 月　JCSM07-0260-01

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2023, 2026, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(JCSM07-0260-01)　JP1 Cloud Service　02-60

追加・変更内容	変更個所
OCI 環境でサーバが稼働している場合の記載を追加した。	1.2.4，2.1.1

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，JP1 Cloud Service ジョブ管理におけるディザスタリカバリオプションのサービス内容について説明したものです。

■ 対象読者

このマニュアルは次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

- JP1 Cloud Service / ジョブ管理において，ディザスタリカバリオプションの導入を検討されている方
- JP1 Cloud Service / ジョブ管理において，ディザスタリカバリオプションの概要や基本的な使い方を理解しようとされている方

■ マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの概要
ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションで提供するサービスの概要と特長について説明しています。

第 2 章　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション利用方法
ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション利用するために必要な手順について説明しています。

付録 A　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの注意事項
ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの注意事項について説明しています。

付録 B　各バージョンの変更内容
各バージョンの変更内容について説明しています。

付録 C　用語解説
このマニュアルにおける用語について説明しています。

■ マニュアルの表記

このマニュアルでは，製品の正式名称と異なる表記があります。次に，このマニュアルでの表記と製品の正式名称が異なる点を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
JP1/AJS3 - Agent [Base]，JP1/AJS3 - Manager [Base]または，JP1/IM3 - Manager [Base]	JP1/Base

正式名称	このマニュアルでの表記
JP1/AJS3 - Manager [Manager]	JP1/AJS3 - Manager
JP1/AJS3 - View [View]	JP1/AJS3 - View

目次

前書き　2
変更内容　3
はじめに　4

1　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの概要　8
1.1　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの特長　9
1.2　システム構成　10
1.2.1　AWS 環境でサーバが稼働している場合　10
1.2.2　Azure 環境でサーバが稼働している場合　10
1.2.3　Google Cloud 環境でサーバが稼働している場合　11
1.2.4　OCI 環境でサーバが稼働している場合　11

2　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション利用方法　13
2.1　事前準備　14
2.1.1　災対環境への接続　14
2.2　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション作業の流れ　16
2.3　災対環境への運用切り替え　17
2.3.1　災対環境への切り替え依頼連絡【お客様側作業】　17
2.3.2　災対環境への切り替え完了連絡【JP1 Cloud Service 側作業】　17
2.3.3　お客様環境リカバリ作業【お客様側作業】　17
2.3.4　お客様環境リカバリ作業完了連絡【お客様側作業】　19
2.3.5　ジョブ実行抑止解除【JP1 Cloud Service 側作業】　19
2.3.6　災対環境の利用開始【お客様側作業】　19
2.4　現用環境への運用切り戻し　20
2.4.1　現用環境への切り戻し依頼連絡【お客様側作業】　20
2.4.2　現用環境への切り戻し完了連絡【JP1 Cloud Service 側作業】　20
2.4.3　お客様環境リカバリ作業【お客様側作業】　20
2.4.4　お客様環境リカバリ作業完了連絡【お客様側作業】　22
2.4.5　ジョブ実行抑止解除【JP1 Cloud Service 側作業】　22
2.4.6　現用環境の利用開始【お客様側作業】　22

付録　23
付録 A　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの注意事項　24
付録 B　各バージョンの変更内容　25
付録 B.1　02-60 の変更内容　25

付録 B.2　02-50 の変更内容　25
付録 B.3　02-40 の変更内容　25
付録 B.4　02-30 の変更内容　25
付録 B.5　02-20 の変更内容　25
付録 B.6　02-10 の変更内容　25
付録 C　用語解説　27

索引　29

1 ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの概要

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションで提供するサービスの概要と特長について説明します。

1.1　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの特長

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションでは，広域災害が発生して現用環境（AWS 東京リージョン）が使用できなくなった際，ジョブ管理で提供するジョブ管理マネージャー及びサービスポータルの災対環境（AWS 大阪リージョン）を提供します。※

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの特長を次に示します。

- 現用環境と災対環境とのデータ同期を行うため，被災直前のジョブ実行状態から災対環境でのジョブの再開ができます。
- 広域災害に備えて災対環境で運用訓練や動作検証を実施することができます。

これらの特長により，広域災害またはデータセンタのリージョン障害に対応し，災対環境での業務継続できます。

このマニュアルでは，広域災害の被災発生後で現用環境から災対環境へ運用切り替えおよび運用切り戻しをする方法を説明します。

注※

災対環境側の構成は「ジョブ管理 - スタンダード」相当となります。

1.2　システム構成

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションでは，広域災害の発生などで現用環境（AWS 東京リージョン）が停止した場合，災対環境（AWS 大阪リージョン）に切り替えることで業務復旧することができます。

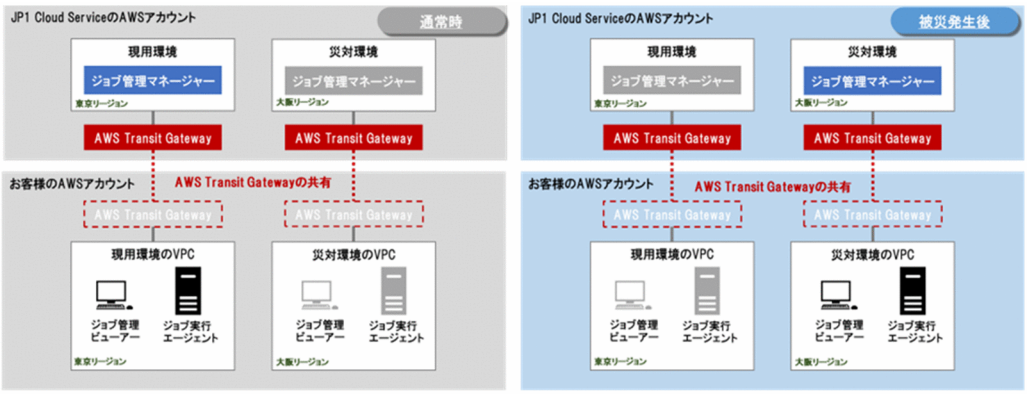
ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションのシステム構成例を以下に示します。

なお，下記のシステム構成図において，ジョブ管理マネージャーの状態を青色が稼働状態，灰色が停止状態を表しています。

1.2.1　AWS 環境でサーバが稼働している場合

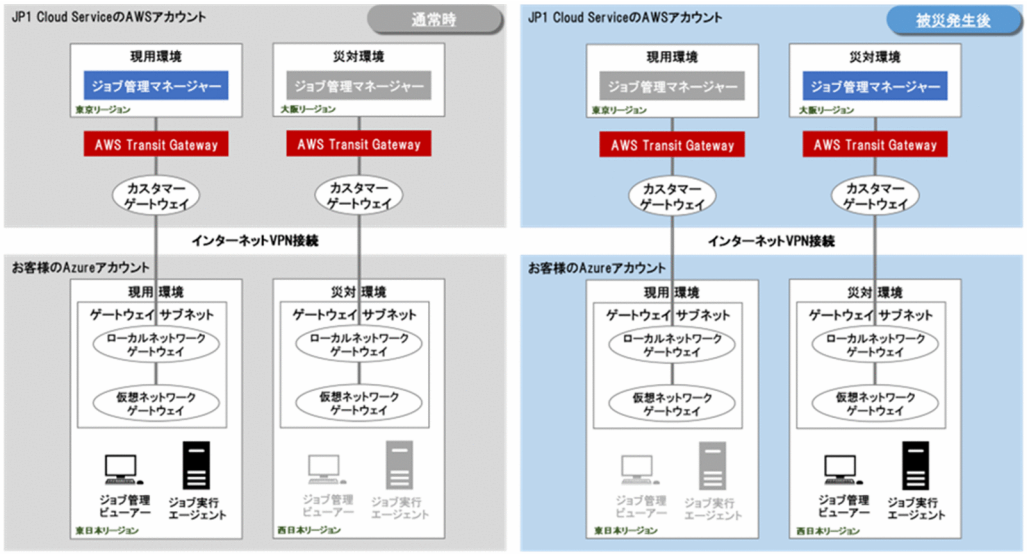
お客様のジョブ実行エージェント等のサーバが AWS 上で稼働し，お客様環境が現用環境用と災対環境用に分けてジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。

本サービスが共有する現用環境用および災対環境用の AWS Transit Gateway にお客様の VPC をアタッチすることで，本サービスとお客様の AWS 環境の間の通信ができます。



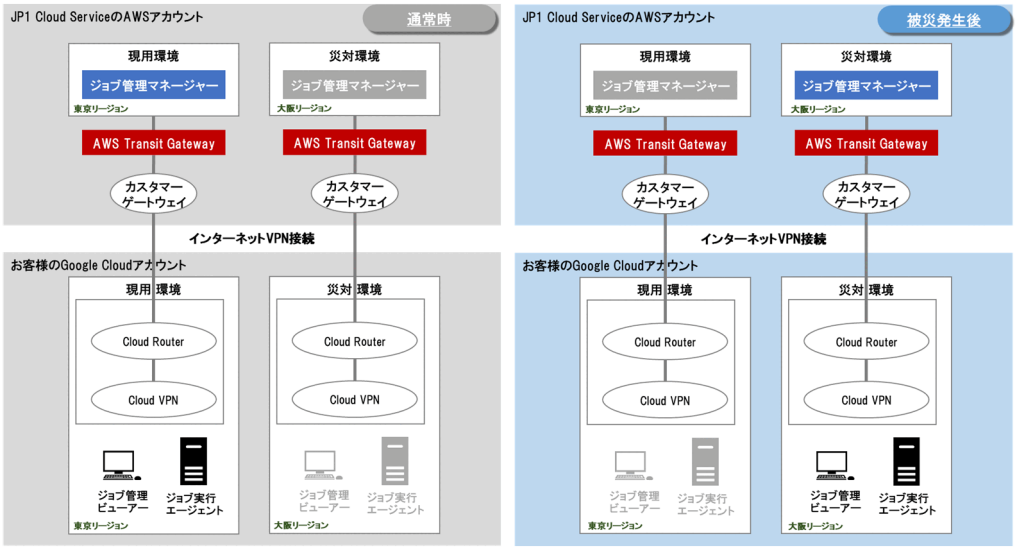
1.2.2　Azure 環境でサーバが稼働している場合

お客様のジョブ実行エージェント等のサーバが Azure 上で稼働し，お客様環境が現用環境用と災対環境用に分けてジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。本サービスが提供する接続用パラメータを基にして，お客様の Azure 環境にインターネット VPN の接続設定をすることで，本サービスとお客様の Azure 環境の間の通信ができます。



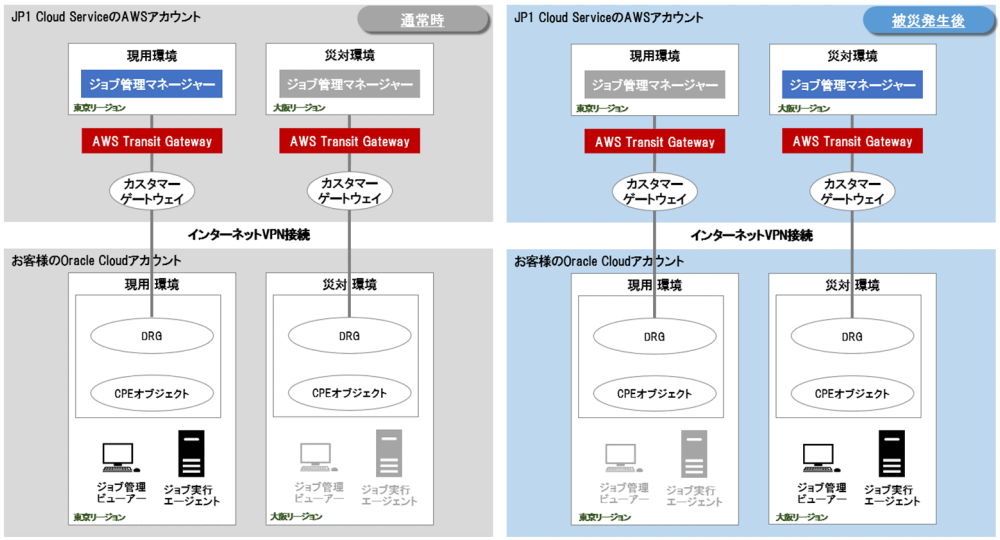
1.2.3　Google Cloud 環境でサーバが稼働している場合

お客様のジョブ実行エージェント等のサーバが Google Cloud 上で稼働し，お客様環境が現用環境用と災対環境用に分けてジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。本サービスが提供する接続用パラメータを基にして，お客様の Google Cloud 環境にインターネット VPN の接続設定をすることで，本サービスとお客様の Google Cloud 環境の間の通信ができます。



1.2.4　OCI 環境でサーバが稼働している場合

お客様のジョブ実行エージェント等のサーバが OCI 上で稼働し，お客様環境が現用環境用と災対環境用に分けてジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。本サービスが提供する接続用パラメータを基にして，お客様の OCI 環境にインターネット VPN の接続設定をすることで，本サービスとお客様の OCI 環境の間の通信ができます。


JP1 Cloud ServiceのAWSアカウント
通常時
現用環境
ジョブ管理マネージャー
東京リージョン
災対環境
ジョブ管理マネージャー
大阪リージョン
AWS Transit Gateway
AWS Transit Gateway
カスタマーゲートウェイ
カスタマーゲートウェイ
インターネットVPN接続
お客様のOracle Cloudアカウント
現用 環境
DRG
CPEオブジェクト
ジョブ管理ビューアー
ジョブ実行エージェント
東京リージョン
災対 環境
DRG
CPEオブジェクト
ジョブ管理ビューアー
ジョブ実行エージェント
大阪リージョン
JP1 Cloud ServiceのAWSアカウント
被災発生後
現用環境
ジョブ管理マネージャー
東京リージョン
災対環境
ジョブ管理マネージャー
大阪リージョン
AWS Transit Gateway
AWS Transit Gateway
カスタマーゲートウェイ
カスタマーゲートウェイ
インターネットVPN接続
お客様のOracle Cloudアカウント
現用 環境
DRG
CPEオブジェクト
ジョブ管理ビューアー
ジョブ実行エージェント
東京リージョン
災対 環境
DRG
CPEオブジェクト
ジョブ管理ビューアー
ジョブ実行エージェント
大阪リージョン

2 ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション利用方法

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションを利用するために必要な手順について説明します。

2.1　事前準備

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションを利用するにあたっての事前準備について説明します。

2.1.1　災対環境への接続

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションを使用する場合，災対環境とお客様環境を接続する必要があります。お客様環境に応じて，災対環境と接続してください。

(1)　お客様が AWS のアカウントを保有している場合

本サービスを利用いただく場合は，ジョブ管理の現用環境および災対環境とお客様の環境をそれぞれ一つのインターフェース（AWS Transit Gateway）を介して接続する必要があります。AWS Transit Gateway は，ネットワーク区域ごとに本サービスが用意し，AWS Resource Access Manager でお客様の AWS アカウントに共有します。お客様には，お客様の AWS アカウントにおいて，本サービスが共有する AWS Transit Gateway への接続設定を実施いただきます。接続設定の詳細については，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド」における「1.2.2 接続の手順（AWS の場合）」を参照してください。

(2)　お客様が Azure のアカウントを保有している場合

本サービスを利用いただく場合は，ジョブ管理の現用環境および災対環境とお客様の環境を，それぞれインターネット VPN を介して接続する必要があります。この接続は，ネットワーク区域ごとに用意する必要があります。お客様には，お客様の Azure アカウントにおいて，本サービスが提供する接続用パラメータを基にしてインターネット VPN の接続設定を実施いただきます。接続設定の詳細については，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド」における「1.2.3 接続の手順（Azure の場合）」を参照してください。

(3)　お客様が Google Cloud のアカウントを保有している場合

本サービスを利用いただく場合は，ジョブ管理の現用環境および災対環境とお客様の環境を，それぞれインターネット VPN を介して接続する必要があります。この接続は，ネットワーク区域ごとに用意する必要があります。お客様には，お客様の Google Cloud アカウントにおいて，本サービスが提供する接続用パラメータを基にしてインターネット VPN の接続設定を実施いただきます。接続設定の詳細については，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド」における「1.2.4 接続の手順（Google Cloud の場合）」を参照してください。

(4)　お客様が Oracle Cloud のアカウントを保有している場合

本サービスを利用いただく場合は，ジョブ管理の現用環境および災対環境とお客様の環境を，それぞれインターネット VPN を介して接続する必要があります。この接続は，ネットワーク区域ごとに用意する必要があります。お客様には，お客様の Oracle Cloud アカウントにおいて，本サービスが提供する接続用パラメータを基にしてインターネット VPN の接続設定を実施いただきます。接続設定の詳細については，「JP1

Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド」における「1.2.5 接続の手順（OCI の場合）」を参照してください。

2.2　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション作業の流れ

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションにおいて，現用環境と災対環境を切り替え・切り戻しする場合の作業の流れを以下に示します。

#	作業概要	作業詳細	作業分担
1	災対環境への運用切り替え	災対環境への切り替え依頼連絡	お客様
2		災対環境への切り替え完了連絡	JP1 Cloud Service
3		お客様環境リカバリ作業	お客様
4		お客様環境リカバリ作業完了連絡	お客様
5		ジョブ実行抑止解除	JP1 Cloud Service
6		災対環境の利用開始	お客様
7	現用環境への運用切り戻し	現用環境への切り戻し依頼連絡	お客様
8		現用環境への切り戻し完了連絡	JP1 Cloud Service
9		お客様環境リカバリ作業	お客様
10		お客様環境リカバリ作業完了連絡	お客様
11		ジョブ実行抑止解除	JP1 Cloud Service
12		現用環境の利用開始	お客様

2.3　災対環境への運用切り替え

現用環境から災対環境に運用を切り替える作業は次のとおりです。

2.3.1　災対環境への切り替え依頼連絡【お客様側作業】

災対環境を利用する場合，お客様が災対環境への切り替え依頼をサービス窓口までご連絡ください。お客様からの依頼を受領後，JP1 Cloud Service 側で現用環境から災対環境への切り替え作業を実施します。※

注※

現用環境から災対環境への切り替えにおいて，サービスポータルからダウンロード可能なログ，メトリクス情報（利用状況の情報），ルート情報，メンテナンス情報は引き継がれません。それ以外の情報は災対環境へ引き継がれます。

2.3.2　災対環境への切り替え完了連絡【JP1 Cloud Service 側作業】

JP1 Cloud Service 側で災対環境への切り替え完了後，お客様へ作業完了を連絡します。

2.3.3　お客様環境リカバリ作業【お客様側作業】

お客様側でリカバリ作業を実施する必要があります。

(1)　実行エージェントの変更設定

災対環境におけるホスト名および IP アドレスの構成に応じて，以下の 3 つのケースが想定されます。それぞれのケースにおけるお客様にご対応いただく必要がある作業は以下の通りです。

#	作業概要	実行ホストのホスト名・IP アドレスが現用環境と災対環境の間で差異がない場合	災対環境で利用するホストのホスト名が現用環境と同様で IP アドレスが異なる場合	災対環境で利用する実行ホスト名・IP アドレスともに現用環境と異なる場合
1	ホスト情報編集（IP アドレス変更のみ）	×	○※1	×
2	ホスト新規登録	×	×	○※2
3	実行エージェントの変更	×	×	○※1

（凡例）

○：実施必要

×：実施不要

注※1

IP アドレスやホスト名の変更に伴い，実行エージェントの再設定が必要です。

注※2

災対環境で新たなホストを利用する場合は，ホストの新規登録が必要です。

お客様側の災対環境におけるエージェント構成に合わせて，サービスポータルからホスト情報と実行エージェントの設定を適切に変更してください。ジョブ管理マネージャーにホスト情報を操作方法については，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.11 ホスト情報の操作（V02-00 以降）」を参照してください。実行エージェントの操作方法については，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.13 実行エージェントの操作」を参照してください。

なお，JP1 Cloud Service 側の現用環境（AWS 東京リージョン）が災対環境へ切り替えた時点で実行するエージェント情報については，災対環境への切り替え時のリカバリ作業短縮のため，サービスポータルから事前に登録しておくことを推奨します。

(2)　ジョブネット状態確認

JP1/AJS3 - View から災対環境のジョブ管理マネージャーにログインしてください。マネージャーホスト名と JP1 ユーザーは，現用環境と同じです。お客様側でジョブの状態を確認し，必要に応じてジョブの状態を変更してください。

災対環境への切り替え時，ジョブ管理はディザスターリカバリースタートとなります。ジョブネットおよびジョブの状態については，JP1 のマニュアル「JP1 Version 13 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド」の「6.2.1　JP1/AJS3 起動時の動作を一時的に変更する」を参照してください。

なお，ジョブ管理マネージャーはジョブ実行抑止状態で起動するため，JP1 Cloud Service 側でジョブ実行抑止解除されるまでジョブの実行は行われません。

(3)　災対環境切り替え時のネットワーク設定および接続先制限に関する変更

災対環境への切替に伴い，ジョブ管理マネージャーの IP アドレスが変更されます。これにより，以下の対応が必要となる場合があります。事前にご確認のうえ，適切な設定変更を実施してください。なお，本作業は必須ではありません。お客様の利用状況に応じて実施してください。

(a)　名前解決先の変更について

ジョブ管理マネージャーの IP アドレスが変更されるため，実行エージェント側で hosts ファイルを使用している場合やお客様環境の DNS を利用している場合は，災対環境の利用開始前に，ジョブ管理マネージャーの名前解決先を災対環境の IP アドレスに変更してください。

(b)　接続元 IP アドレスの制限設定について

災対環境では，ジョブ管理マネージャー上で実行されるコマンドや REST API の送信元 IP アドレスが変更されます。これらの機能を使用して外部サービスと連携している場合，送信元 IP アドレスに制限を設けて

いるサービスでは，事前に許可設定の変更が必要となる場合があります。必要に応じて，送信元 IP アドレスの設定をご確認のうえ，適切に変更してください。

2.3.4　お客様環境リカバリ作業完了連絡【お客様側作業】

お客様側でリカバリ作業完了後，サービス窓口までご連絡ください。

2.3.5　ジョブ実行抑止解除【JP1 Cloud Service 側作業】

お客様側のリカバリ作業が完了したことを受け，JP1 Cloud Service 側でジョブ管理マネージャーのジョブ実行抑止状態を解除します。ジョブ実行抑止状態を解除後，お客様へ作業完了を通知します。

2.3.6　災対環境の利用開始【お客様側作業】

JP1 Cloud Service 側でジョブ実行抑止解除後，お客様へ作業完了を連絡します。

これらの作業が完了すると，災対環境でのジョブ管理の利用を開始することができます。

2.4　現用環境への運用切り戻し

現用環境が復旧した後，現用環境に運用を切り戻す手順は次のとおりです。

2.4.1　現用環境への切り戻し依頼連絡【お客様側作業】

現用環境への切り戻しする場合，お客様が現用環境への切り戻し依頼をサービス窓口までご連絡ください。お客様からの依頼受領後，JP1 Cloud Service 側で災対環境から現用環境への切り替え作業を実施します。※

注※

災対環境から現用環境への切り戻しにおいて，サービスポータルからダウンロード可能なログ，メトリクス情報（利用状況の情報），ルート情報，メンテナンス情報は引き継がれません。それ以外の情報は現用環境へ引き継がれます。

2.4.2　現用環境への切り戻し完了連絡【JP1 Cloud Service 側作業】

JP1 Cloud Service 側での現用環境へ切り戻し完了後，お客様へ作業完了を連絡します。

2.4.3　お客様環境リカバリ作業【お客様側作業】

お客様側でリカバリ作業を実施する必要があります。

(1)　実行エージェントの変更設定

災対環境から現用環境へ切り戻す際には，ホスト名および IP アドレスの構成に応じて，以下の 3 つのケースが想定されます。それぞれのケースにおけるお客様にご対応いただく必要がある作業は以下の通りです。

#	作業概要	実行ホストのホスト名・IP アドレスが現用環境と災対環境の間で差異がない場合	現用環境で利用するホストのホスト名が災対環境と同様で IP アドレスが異なる場合	現用環境で利用する実行ホスト名・IP アドレスともに災対環境と異なる場合
1	ホスト情報編集(IP アドレス変更のみ)	×	○※1	×
2	ホスト新規登録	×	×	○※2
3	実行エージェントの変更	×	×	○※1

（凡例）

○：実施必要

×：実施不要

注※1

IP アドレスやホスト名の変更に伴い，実行エージェントの再設定が必要です。

注※2

現用環境で新たなホストを利用する場合は，ホストの新規登録が必要です。

お客様側の現用環境におけるエージェント構成に合わせて，サービスポータルからホスト情報と実行エージェントの設定を変更してください。ジョブ管理マネージャーにホスト情報を操作方法については，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.11 ホスト情報の操作（V02-00 以降）」を参照してください。実行エージェントの操作方法については，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.13 実行エージェントの操作」を参照してください。

(2)　ジョブネット状態確認

JP1/AJS3 - View から現用環境のジョブ管理マネージャーにログインしてください。お客様側でジョブの状態を確認し，必要に応じてジョブの状態を変更してください。

現用環境への切り戻し時，ジョブ管理はディザスターリカバリースタートとなります。ジョブネットおよびジョブの状態については，JP1 のマニュアル「JP1 Version 13 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド」の「6.2.1　JP1/AJS3 起動時の動作を一時的に変更する」を参照してください。

なお，ジョブ管理マネージャーはジョブ実行抑止状態で起動するため，JP1 Cloud Service 側でジョブ実行抑止解除されるまでジョブの実行は行われません。

(3)　現用環境切り戻し時のネットワーク設定および接続先制限に関する変更

災対環境から現用環境へ切り戻す際にも，ジョブ管理マネージャーの IP アドレスが再度変更されるため，以下の対応が必要となる場合があります。なお，本作業は必須ではありません。お客様の利用状況に応じて実施してください。

(a)　名前解決先の変更について

ジョブ管理マネージャーの IP アドレスが変更されるため，実行エージェント側で hosts ファイルを使用している場合やお客様環境の DNS を利用している場合は，現用環境の利用開始前に，ジョブ管理マネージャーの名前解決先を現用環境の IP アドレスに変更してください。

(b)　接続元 IP アドレスの制限設定について

災対環境で利用していた送信元 IP アドレスから，現用環境の IP アドレスに戻るため，外部サービス側で送信元 IP アドレスの制限を設けている場合は，現用環境の IP アドレスに再設定してください。

2.4.4　お客様環境リカバリ作業完了連絡【お客様側作業】

お客様側でリカバリ作業完了後，サービス窓口までご連絡ください。

2.4.5　ジョブ実行抑止解除【JP1 Cloud Service 側作業】

お客様側のリカバリ作業が完了したことを受け，JP1 Cloud Service 側でジョブ管理マネージャーのジョブ実行抑止状態を解除します。

2.4.6　現用環境の利用開始【お客様側作業】

JP1 Cloud Service 側でジョブ実行抑止解除後，お客様へ作業完了を連絡します。

これらの作業が完了すると，現用環境でのジョブ管理の利用を開始することができます。

付録

付録 A　ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの注意事項

ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの注意事項について説明します。

- 現用環境でジョブ管理とシステム管理が認証サーバを統合している場合，認証情報は現用環境のシステム管理にあるため，ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションを利用できません。ジョブ管理とシステム管理を同時にご契約いただいている場合，システム管理に JP1 ユーザー認証連携をしないでください。
- 災対環境では，インターネット接続および多要素認証を使用することはできません。
- 災対環境では，ジョブ管理におけるメンテナンス日時変更機能を使用することはできません。※
- 運用訓練における現用環境への切り戻しでは，災対環境で更新した情報およびデータの復旧は行いません。

注※

JP1 Cloud Service V02-10 以降で追加された機能です。この機能の詳細については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理 利用ガイド」を参照してください。

付録 B　各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更点を次に示します。

付録 B.1　02-60 の変更内容

- OCI 環境でサーバが稼働している場合の記載を追加した。

付録 B.2　02-50 の変更内容

- AWS 環境でサーバが稼働している場合，Google Cloud 環境でサーバが稼働している場合の記載を修正，追加した。

付録 B.3　02-40 の変更内容

- オンプレミス環境でサーバが稼働している場合の構成図および説明を削除した。
- 災対環境切り替え時において，ホスト名および IP アドレスの構成に応じて，それぞれのケースにおける必要な作業の説明を追加した。
- 災対環境切り替え時のネットワーク設定および接続先制限に関する変更の説明について追加した。
- 現用環境切り戻し時において，ホスト名および IP アドレスの構成に応じて，それぞれのケースにおける必要な作業の説明を追加した。
- 現用環境切り戻し時のネットワーク設定および接続先制限に関する変更の説明について追加した。

付録 B.4　02-30 の変更内容

- なし。

付録 B.5　02-20 の変更内容

- マニュアルの参照先を訂正した。

付録 B.6　02-10 の変更内容

- AWS 環境でサーバが稼働している場合の概要図を訂正した。

- オンプレミス環境でサーバが稼働している場合の概要図を訂正した。
- サービスポータルにおける制約事項を追加した。
- メンテナンス日時変更機能における制約事項を追加した。

付録 C　用語解説

（英字）

AWS Direct Connect
: AWS の環境と AWS 以外の環境を接続するための AWS が提供するサービスです。

AWS Resource Access Manager
: AWS のリソースを任意の AWS アカウントに共有するための AWS が提供するサービスです。

AWS Transit Gateway
: VPC や VPN 接続などを接続してネットワークを簡素化するための AWS が提供するサービスです。

Transit Gateway Attachment
: VPC や VPN 接続を AWS Transit Gateway にアタッチするための AWS が提供する機能です。

VPC
: Amazon Virtual Private Cloud の略で，仮想ネットワークを定義するための AWS が提供するサービスです。

VPN
: Virtual Private Network の略で，インターネット上などに仮想的な専用線を設けて，安全にデータとやり取りをするためのネットワークです。

（ア行）

インターネット VPN
: インターネット回線を利用した VPN です。

（カ行）

カスタマーゲートウェイデバイス
: AWS に VPN 接続する側の物理アプライアンスまたはソフトウェアアプライアンスです。

仮想ネットワークゲートウェイ
: Azure 上の仮想ネットワークと他のネットワークを接続するためのゲートウェイです。

ゲートウェイサブネット
Azure 上でゲートウェイを配置するためのネットワーク領域です。

現用環境
通常運用で使用する拠点です。

（サ行）

災対環境
災害対策用に用意した拠点です。

ジョブ管理ビューアー
ジョブ管理マネージャーを操作するための機能です。主に以下の構成物から構成されます。

- JP1/AJS3 - View

ジョブ管理マネージャー
複数の業務の内容と実行順序を定義し，保存した定義を自動で実行することによって，業務の運用を管理する機能です。主に以下の構成物から構成されます。

- JP1/AJS3 - Manager
- JP1/Base

（ラ行）

ローカルネットワークゲートウェイ
Azure においてルーティング目的でオンプレミスの場所を表すオブジェクトです。

索引

A

AWS Direct Connect〔用語解説〕 27
AWS Resource Access Manager〔用語解説〕 27
AWS Transit Gateway〔用語解説〕 27
AWS 環境でサーバが稼働している場合 10
Azure 環境でサーバが稼働している場合 10

T

Transit Gateway Attachment〔用語解説〕 27

V

VPC〔用語解説〕 27
VPN〔用語解説〕 27

い

インターネット VPN〔用語解説〕 27

か

カスタマーゲートウェイデバイス〔用語解説〕 27
仮想ネットワークゲートウェイ〔用語解説〕 27

け

ゲートウェイサブネット〔用語解説〕 28
現用環境への運用切り戻し 20
現用環境〔用語解説〕 28

さ

災対環境への運用切り替え 17
災対環境への接続 14
災対環境〔用語解説〕 28

し

システム構成 10
事前準備 14
ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション作業の流れ 16
ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの概要 8
ジョブ管理 ディザスタリカバリオプションの特長 9
ジョブ管理 ディザスタリカバリオプション利用方法 13
ジョブ管理ビューアー〔用語解説〕 28
ジョブ管理マネージャー〔用語解説〕 28

ろ

ローカルネットワークゲートウェイ〔用語解説〕 28

株式会社 日立製作所

〒 100–8280　東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 6 号